

会員の広場



「渋柿」が入会前後に考えたこと

品田良一（東京）

昨年来、経済倶楽部の評議員で取引先の社長でもある方から入会の熱心なお誘いを受けた。ちょうど昨年末で11年務めた会社代表を降りて相談役となり、気楽な身になったこともあって入会させてもらった。その少し前からゴルフスクールにも通い始めた。この年齢になると健康が最大の関心事で、日経新聞なども必ず計報欄に目を通す。長生きには食事・睡眠・運動の三

つにプラスが大事であるという。心も大事と教えてくれたのは3年前、中国の北京で会った日系企業の中国人副董事長である。まったく同感だ。

32歳からゴルフを始めた。もともと運動神経が今イチで見よう見まねを続け、若い頃は「渋柿」といわれた。意味は、悪いまま固まってしまったということのようだ。それでも何人かの人が思い余って手ほどきをしてくれた。ゴルフは技術はもちろん必要だが、本場にメンタルなスポーツで、1日のラウンドで前半ダメでも心を変えると別人のように復活することもある。

渋柿ながらゴルフを長年続けてきて、パートナーにはお互い様の時もあつたとはいえ、ずいぶん迷惑をかけてきたと思う。実は長いこと、頸椎症で悩まされ左手のしびれと握力低下が続きゴルフには致命傷だった2年ほどゴルフができなかつた時さえあつた。

2005年の9月だったか、仕事関係で北京に滞在中、知り合った中国人から偶然に鍼治療を勧められた。

連れて行かれたのは、れっきとした人民解放軍の病院である。軍の病院は結構たくさんあるらしい。それから治療目的で月に3回、北京に通った。鍼そのものは割り箸ほどの太さと長さがある。それを首、肩、腕に本人はもちろん周りの人にも聞こえるほどの音でブスツ、ブスツと刺す。その時は治りたい一心であつたから耐えられたのだらう。今またといわれたら躊躇しそうだ。完全に治つたとはいえないが、おかげ様でゴルフがやれるようになるまで回復した。

ゴルフスクール通いは最初は2〜3ヵ月でも習っておしまいと思っていたが、ゴルフの深さと、レッスンプロの熱心な教えに感謝しつつ続けている。技術的なことを書くのは相変わらず私には無理だ。腕を上げ、書けるようになることを永遠のテーマとしたい。

出身が工業高校で、卒業して学んだことが活かせる方向に進んだが、20歳の時、思うことがあつて百八十度進路を変えた。経理の道だ。当時の本人としては一

大決心だった。今この歳になって後悔はないし最善の選択だつたと思つている。高校を卒業して7年後に某私大商学部に入學し卒業した。もともと理科系志向の頭で探求心が強く、一つひとつ納得しないと進まない性格だ。知識欲は旺盛なことから百八十度変えて覚えることがすべて新鮮で楽しい時を過ごしてきた。

今は、日本の財政危機を憂いている。最近ある経済書を読んだ。具体的な内容は割愛するが、財政危機を脱し、いかに希望がもてる社会を作るかに触れていた内容に大いに感銘を受けたが、それで思つたのが、問題はこの時代に勇氣をもつて決断できる政治家がいるのかということだ。小選挙区比例代表制が政治家を小粒にしてしまったのか。20年ほど前には、この制度が優れ政治改革につながる最良の選択肢だとされていたはずだが、今また選挙制度自体についても議論が起きている。問題意識を広く持て、これも経済倶楽部に入会させてもらったおかげと、感謝している。